

平成 24 年度自然誌シンポジウム開催要領

平成 24 年度千葉県立中央博物館企画展「シカとカモシカ -日本の野生を生きる-」関連行事 自然誌シンポジウム 「どうする？ 房総のシカと生物多様性保全」

日時：平成24(2012)年8月19日(日) 10:30～15:30

場所：千葉県立中央博物館 講堂

定員：当日先着200名 参加無料（どなたでも参加できます）

主催：千葉県立中央博物館・千葉県生物多様性センター

ニホンジカは全国的に生息数・分布域が増加拡大しており、農林業への被害と植生等に対する影響が「シカ問題」として各地で問題となっています。千葉県のニホンジカについては、1990年代以降、調査研究に基づく保護管理計画が立てられ、諸施策が実施されてきました。その結果、被害額は減少しましたが、生息数・分布域の増加拡大傾向が続いています。また、房総においても植生等の自然に対するニホンジカの影響が顕著となっています。

本シンポジウムでは、千葉県のニホンジカの保護管理の現状と、ニホンジカによる植生等への影響について紹介します。そのうえで、ニホンジカによる自然への影響をどう捉えるのかといった問題を参加者の皆さんと一緒に考え、房総のシカ保護管理のこれからを地域の生態系・生物多様性の保全という観点から考えたいと思います。

内容

全体進行：原 正利（千葉県立中央博物館）

◆開会のあいさつ 10:30～10:35

上野純司（千葉県立中央博物館館長）

◆趣旨説明および千葉のシカの歴史の概要紹介 10:35～10:50

落合啓二（千葉県立中央博物館）

◆講演

・講演1：浅田正彦（千葉県生物多様性センター） 10:50～11:25
千葉のシカの保護管理の現状と課題

・講演2：鈴木 牧（東京大学大学院新領域創生科学研究科） 11:25～12:00
房総の自然に対するシカの影響

お昼休憩（12:00～13:00）

・講演3：大野啓一（千葉県立中央博物館） 13:00～13:35
植生学会が取りまとめた植生に対するシカの全国的な影響

・講演4：揚妻直樹（北海道大学和歌山研究林） 13:35～14:10
シカ個体群と環境の変遷から生態系保全を考える

◆パネルディスカッション 14:30～15:25

コーディネーター：花輪伸一（元 WWFジャパン）

パネリスト：浅田正彦、鈴木 牧、大野啓一、揚妻直樹

◆閉会のあいさつ 15:25～15:30

中村俊彦（千葉県生物多様性センター副技監・千葉県立中央博物館副館長）